

所信と抱負

公益社団法人益田青年会議所 2018年度スローガン

為せば成る 為さねばならぬ

～可能性を追い求め使命を果たせ～

公益社団法人益田青年会議所

理事長 山本 尚

【はじめに】

私が生まれ育ったのは、北海道恵庭市でした。

私が島根県で生活を営むようになったのは、今から10年ほど前であり、このまちで生活するようになったのは、7年前のことでした。このまちで生活するようになってから、私は先輩のご紹介を受け、益田青年会議所で活動することとなりました。もっとも、私自身、このまちに対して、最初から、郷土愛があったわけではなかったと思います。

しかしながら、このまちで生まれ育った私の妻や私の子どもたちにとって、このまちは生まれ育った郷土であり、彼らを通して、私自身もこのまちが郷土になりました。

そして、このまちで生まれ育ったわけではない私を受け入れ、共に活動して頂いた先輩諸兄や皆様のおかげで、現在の私が存在しています。

このまちに生まれ育ったわけではない私から見ると、このまちには「何もない」ということはなく、沢山の魅力が溢れています。

私は、皆様から頂戴したご恩に対して報いることができるよう、公益社団法人益田青年会議所第54代理事長という職責を一生懸命に精一杯、全うする所存です。皆様と一緒にこのまちをより良くしていきたいと考えております。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【基本理念】

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志により、日本の青年会議所運動は始まりました。その後、共に向上し合い、社会に貢献しようという理念のもとに全国各地に次々と青年会議所が誕生し、1965年6月、303番目の青年会議所として益田青年会議所は誕生しました。益田青年会議所が設立されて以後、先輩諸兄は、「修練」「奉仕」「友情」の三信条のもと、明るい豊かな社会の実現のため、まちづくりやひとづくりに取り組んでこられました。

しかしながら、社会環境は内的・外的要因によって日々変化し続けており、それに伴って、我々が取り組むべき課題も変化し続けています。我々は、先輩諸兄が歩んでこられた足跡を振り返るとともに、どのようにしてこのまちが形作られてきたのか、現状はどうか、その状況を踏まえて、このまちのために取り組むべきことは何かを調査分析し、実行に移す必要性があります。

仮に、このまちが直面している課題が困難な問題であったとしても、我々は、真正面から取り

組み、問題を解決することは可能であるし、それを実現することは使命です。この使命を全うするために日々の努力を継続することにより、我々は人としても成長をすることができます。

「為せば成る」＝可能性 「為さねばならぬ」＝「使命」の精神で、率先して運動を展開しましょう。

【基本方針】

1 強固な組織・迅速な広報・適切な組織運営

公益社団法人益田青年会議所は、青年経済人の集合体ですが、個々人が個々人の考えだけで行動しては、組織とは言えません。組織が必要かつ十分に機能するためには、個々人が組織におけるそれぞれの役割を理解し、その役割を果たしていくことが大切です。そして、個々人をつなぎ合わせ、連帯感をもって日々行動し、運動を展開することができれば、強固な組織を作り上げることができます。

また、この会の運動を展開するためには、ご支援を頂いている会員のご家族、先輩諸兄、関係諸団体のご理解が必要不可欠です。そのためには、我々の日々の活動や運動を会員のご家族、先輩諸兄、関係諸団体に適時に知っていただくことが大切です。時機を逸した情報は意味がないからです。さらに、我々の運動を広めるためには、適時に、このまちに住むすべての人々に我々の運動を知っていただくことが大切です。そのため、迅速な広報活動が必要となります。

もっとも、組織運営も広報活動も適正さが必要です。公益法人として遵守すべき法令、会としての定款や運営規則を理解し、それに基づいて運営がなされる必要性があります。そして、この会の運営は、創立当時から承継した歴史・伝統があり、それらに基づく慣習も一つのルールと考えられます。

この組織におけるルールを十分に理解し、的確かつ迅速な組織運営を実現しましょう。

2 魅力の発信による会員拡大

会員拡大は、公益社団法人益田青年会議所の日々の活動や運動の展開の第一歩です。我々の運動や志を理解し、この会に入会された方は、オブザーバーでも外部の協力者でもなく、当事者となります。当事者意識をもって活動・運動をする人材を拡大することは、社会開発及び人材育成に直接的に効果を持ちます。また、伝統ある益田青年会議所を未来に引き継ぐためには、未来を担う新たな同志が必要不可欠です。

会員拡大を実現するためには、会員が、この会の魅力を語れなければなりません。この会には、学びや楽しみ、そして、新たな人々との出会いなど様々な魅力があります。

会員拡大の重要性を理解し、この会の魅力を発信することによって、会員全員による会員拡大を実現しましょう。

3 会員の地力の向上

青年会議所は、会員に対し、自分の所属する会社では行わないことや、普段出会うことのできない人との出会いなど、普段経験できないことを経験する機会を与えてくれます。そして、それらを実現するには、未知のことへの取組であることが多く、精神的に大きなプレッシャーを受けるなど困難を伴います。そのような困難を乗り越えたとき、人は一回りも二回りも大きくなります。それは、単純に手法やスキルを学ぶだけにとどまらず、リーダーとして相応しい胆力や気概をもたらします。

一方で、この会は、組織体であり、組織において議論を行う場合には、基礎となるスキルが必要とされます。基礎力がなければ、効果的な議論が期待できないためです。

会員がお互いに、切磋琢磨し、互いに助け合い、困難を突破することによって、強靱な精神力と冷静な判断力を持った地力あるリーダーを目指しましょう。

4 子ども達の可能性は無限大

子ども達は、この世に生を受けた瞬間から、その先の将来が確定しているわけではなく、その後の日々の生活や経験に基づいて、様々な成長を遂げます。つまり、子ども達の可能性は無限大なのです。そして、その無限の可能性を引き出すことは、私たち大人の使命であると考えます。無限の可能性を持った子ども達の成長は、このまちの明るい豊かな社会の実現に繋がります。このまちで暮らしている子ども達は、学校や家庭において様々な経験や学びを得ていると思われまふ。一方で、我々は学校や家庭とは異なった切り口で、普段体験できないことを経験する機会を提供することができます。自分自身が持っている可能性を追い求めることができる向上心を持った子ども達の育成を行いまふ。

5 地域社会を作り上げるのは我々だ

我々が住み暮らすまちは、先輩諸兄の弛まぬ努力により形作られてきました。しかしながら、時代は常に変化を続けており、それに伴って、我々が取り組むべき課題は発生しています。どのようなまちであっても、まちが形成された当初から発展しているわけではなく、発展の裏には、人々の地道な努力やまちづくりへの地道な取り組みが存在しています。地域社会を作り上げるのは我々なのです。

このまちを作り上げられた先輩諸兄は、このまちの発展のために様々な取り組みを行っておられます。そして、このまちには、沢山の素晴らしい公共資産があります。しかしながら、我々はこのまちの資産を十分に活かしているのでしょうか。このまちに既に存在しているそのような資産を有効活用するには、真に公益的な利用とは何であるのかを問い、それを実現していくための運動が必要です。

過去を学び、現状を調査し、このまちの発展のために、社会開発運動を継続しなければなりません。

6 中長期計画を実現するために

公益社団法人益田青年会議所は、2015年に創立50周年を迎え、郷土愛溢れる市民を育成し、地域独自の地域資源を活用することによる交流人口拡大プロジェクトを中長期計画として作成しました。本年は、中長期計画の4年目となります。中長期計画は、歴史を活かした地域振興、景観を活かした地域振興、そして、高速交通網の整備を3本の柱として、交流人口の拡大を目指すものです。三隅・益田道路が事業化されている現状において、益田青年会議所は、今後、これをどう活用するかという視点から、事業を展開することも重要となります。

中長期計画の過去の取り組みや、このまちの課題を検討し、中長期計画として我々が取り組むべきことはどのようなことなのかを見つめ直し、地域独自の地域資源を活用することによる交流人口拡大に努めて頂きたいと思います。

【おわりに】

江戸時代の後期から末期にかけて、衰退した農村や破綻寸前となった藩財政を立て直すことに大きな成果を残した二宮尊徳（金次郎）は、「積小為大」という言葉を残しておられます。これは、小さなものが積み積もって大きくなる。大きなものが小なるものを生むのではない。物事の順序を取り違えてはいけないということを意味します。

まちづくりも、ひとづくりも小さな積み重ねがあって、成果を発揮するものです。会員一同、日々努力を重ね、その成果が大きなものとなるよう、日々の活動、運動に取り組みましょう。

公益社団法人益田青年会議所 2018年度
委員会職務分掌

【総務広報委員会】

1. 事務局、財務、備品の維持管理
2. 慶弔・褒章に関する事項
3. 総会、例会、理事会、その他諸会議、会合に関する事項
4. 計算書類、事業報告書等の主務官庁への届出
5. 定款その他諸規定に関する事項
6. 各種大会への参加の奨励
7. 会員名簿の作成及び管理
8. 専務理事及び会計理事の補佐
9. 卒業式の実施
10. 会員の休会及び退会に関する事項
11. 各委員会への連絡調整
12. ウェブサイトの充実及び管理
13. 事業並びに行事の記録保存
14. 諸団体との連携、協力に関する事項
15. 公益社団法人に関する事項
16. 会員拡大
17. その他

【会員開発委員会】

1. 会員の指導力及び資質向上に関する事項
2. 新入会員の研修期間の所属
3. 新入会員の研修
4. 会員全員で行う会員拡大に関する企画立案及びその実行
5. 会員拡大に関する情報の集約と発信
6. その他

【教育青少年開発委員会】

1. 地域の青少年の健全育成に関する事項
2. 会員の家族の親睦及び交流に関する事項
3. 会員拡大
4. その他

【社会開発委員会】

1. 公共資産の公益的有効活用に関する事項
2. 会員拡大
3. その他

【中長期計画委員会】

1. 中長期計画に沿った交流人口拡大事業の実施
2. 会員拡大
3. その他

委員会要望

【共通事項】

- ・ CD5 サイクル（調査・分析・企画・行動・評価）の徹底による各種行動の遂行
- ・ 当事者意識を持つこと
- ・ 会員全員で行う会員拡大
- ・ 会議前の前回議事録の提出徹底
- ・ 各種事業への積極的な参加
- ・ 組織に則った報告、連絡、相談の徹底

【会計理事】

- ・ 公益社団法人に係る会計システムの徹底及び共有
- ・ 公益法人に係る会計書類の整備
- ・ 各委員会事業会計の調整及び精査

会計理事 齋藤 崇

【総務広報委員会】

- ・ 各種議事録の整備
- ・ 効果的な広報活動の実践
- ・ マスコミ関係との連携
- ・ 公益社団法人に関する各種書類の申請、管理

担当専務理事：大畑 雅敬

委員長：野村 大輔

副委員長：農原 壘

委員：佐々木 遊、平井 健、大谷 幸子

【会員開発委員会】

- ・ 会員全員で取り組む会員拡大の実践
- ・ 個人の資質向上に繋がる会員研修の実施
- ・ 組織力の向上に繋がる会員研修の実施
- ・ 益田まつり及び献血に関する事項
- ・ 新年会の実施

担当副理事長：村上 貴志
委員 長：草野 祐一
副委員 長：和田 洋子
委 員：岡 大士、大庭 翔大、大庭 慎一、田原 佳祐

【教育青少年開発委員会】

- ・子ども達の可能性を豊かにする事業の実施
- ・教育関係者との連携
- ・防災祈念碑等 LOM 関連施設の美化
- ・家族会の実施

担当副理事長：村上 貴志
委員 長：山見 考司
副委員 長：高田 翼
委 員：高橋 知子、佐々木 誠司、三保 匡由、青木 美穂

【社会開発委員会】

- ・地域社会が抱える問題に関する社会開発事業の実施
- ・南日本海ネットワーク会議に関する事項
- ・忘年会の実施

担当副理事長：須藤 憲蔵
委員 長：山本 学
副委員 長：安野 雄一郎
委 員：佐々木 智正、野村 健太、大田 泰平、出雲 一樹

【中長期計画委員会】

- ・中長期計画に沿った交流人口拡大事業の実施
- ・中長期計画の検証
- ・周年に関する会員の意識醸成に関する事項
- ・納涼会の実施

担当副理事長：須藤 憲蔵
委員 長：松本 健志
副委員 長：熊谷 賢治
委 員：片山 裕志、田川 大貴、河野 沙奈美、安田 憲司